

はじめにお読みください

このたびは弊社の製品をお買い上げいただき、誠にありがとうございます。
本書では、以下の項目について説明します。

本書をお読みになる前に	2
簡単な導入と万全の運用	5
本サーバの特長	7
セットアップ	8
サポート & サービス	18
リサイクルについて	19
コンフィグレーションシート	20
使用許諾契約書	27

PRIMERGY マニュアルについて

本サーバの主なマニュアルには、以下の種類があります。各マニュアルの概要は以下となっておりますので、必要に応じて参照してください。

梱包物一覧	: 本サーバの梱包物／添付品の一覧を記載しています。
安全上のご注意	: 本サーバを安全に正しくお使いいただくための重要な情報を記載しています。本サーバをお使いになる前に熟読し、理解されたうえで本サーバをお使いください。
はじめにお読みください (本書)	: 本サーバの開梱から運用までの流れを説明しています。電源を入れる前にお読みください。
取扱説明書	: 内蔵オプション装置の取り付け、ハードウェアの設定、およびトラブルシューティングについて説明しています。
ソフトウェアガイド	: OSインストール方法、クライアントセットアップ方法、および高信頼ツールについて説明しています。
ServerView ユーザーズガイド	: ServerView の使用方法を説明しています。
ServerView WebExtension ユーザーズガイド	: ServerView WebExtension の使用方法を説明しています。
REMCS エージェント運用ガイド	: REMCS エージェントの使用方法を説明しています。
カスタムメイドサービスについ て・ドライバ一覧	: カスタムメイドサービスに関する留意事項と、OSインストールタイプにインストールされているドライバ情報について説明しています。
『梱包物一覧』を除く各マニュアルは、PRIMERGY ドキュメント & ツール CD の以下からご参照いただけます。 [CD-ROM ドライブ] : ¥MANUAL¥index.htm	
その他、添付されているドキュメントがある場合には、サーバ設置前に必ずお読みください。	

本書をお読みになる前に

安全にお使いいただくために

このマニュアルには、本サーバを安全に正しくお使いいただくための重要な情報が記載されています。本サーバをお使いになる前に、このマニュアルを熟読してください。特に、添付の『安全上のご注意』をよくお読みになり、理解されたうえで本サーバをお使いください。

また、『安全上のご注意』およびマニュアルは、本サーバの使用中にいつでもご覧になれるよう大切に保管してください。

注意

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会（VCCI）の基準に基づくクラス A 情報技術装置です。この装置を家庭環境で使用すると電波妨害を引き起こすことがあります。この場合には使用者が適切な対策を講ずるよう要求されることがあります。

本装置は、社団法人電子情報技術産業協会のサーバ業界基準（PC-11-1988）に適合しております。

本製品のハイセイフティ用途での使用について

本製品は、一般事務用、パーソナル用、家庭用、通常の産業用等の一般的用途を想定して設計・製造されているものであり、原子力施設における核反応制御、航空機自動飛行制御、航空交通管制、大量輸送システムにおける運行制御、生命維持のための医療器具、兵器システムにおけるミサイル発射制御など、極めて高度な安全性が要求され、仮に当該安全性が確保されない場合、直接生命・身体に対する重大な危険性を伴う用途（以下「ハイセイフティ用途」という）に使用されるよう設計・製造されたものではありません。お客様は、当該ハイセイフティ用途に要する安全性を確保する措置を施すことなく、本製品を使用しないでください。ハイセイフティ用途に使用される場合は、弊社の担当営業までご相談ください。

本装置は、落雷などによる電源の瞬時電圧低下に対し不都合が生じることがあります。電源の瞬時電圧低下対策としては、交流無停電電源装置などを使用されることをお勧めします。

（社団法人電子情報技術産業協会のパーソナルコンピュータの瞬時電圧低下対策ガイドラインに基づく表示）


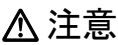
当社のドキュメントには「外国為替および外国貿易管理法」に基づく特定技術が含まれていることがあります。特定技術が含まれている場合は、当該ドキュメントを輸出または非居住者に提供するとき、同法に基づく許可が必要となります。

高調波ガイドライン適合品




本書の表記

■警告表示

本書では、いろいろな絵表示を使っています。これは装置を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々に加えられるおそれのある危害や損害を、未然に防止するための目印となるものです。その表示と意味は次のようになっています。内容をよくご理解のうえ、お読みください。



	この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡する可能性または重傷を負う可能性があることを示しています。
	この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性があること、および物的損害のみが発生する可能性があることを示しています。

また、危害や損害の内容がどのようなものかを示すために、上記の絵表示と同時に次の記号を使っています。

	△で示した記号は、警告・注意を促す内容であることを告げるものです。記号の中やその脇には、具体的な警告内容が示されています。
	⊘で示した記号は、してはいけない行為（禁止行為）であることを告げるものです。記号の中やその脇には、具体的な禁止内容が示されています。
	●で示した記号は、必ず従っていただく内容であることを告げるものです。記号の中やその脇には、具体的な指示内容が示されています。

■本文中の記号

本文中に記載されている記号には、次のような意味があります。

記号	意味
	お使いになる際の注意点や、してはいけないことを記述しています。必ずお読みください。
	ハードウェアやソフトウェアを正しく動作させるために必要なことが書いてあります。必ずお読みください。
→	参照ページや参照マニュアルを示しています。

■キーの表記と操作方法

本文中のキーの表記は、キーボードに書かれているすべての文字を記述するのではなく、説明に必要な文字を次のように記述しています。

- 例：【Ctrl】キー、【Enter】キー、【→】キーなど
- また、複数のキーを同時に押す場合には、次のように「+」でつないで表記しています。
- 例：【Ctrl】+【F3】キー、【Shift】+【↑】キーなど

■コマンド入力（キー入力）

本文中では、コマンド入力を次のように表記しています。

- diskcopy a: a:
 ↑ ↑
- ・↑の箇所のように文字間隔を空けて表記している部分は、【Space】キーを1回押してください。
 - ・また、上記のようなコマンド入力を英小文字で表記していますが、英大文字で入力してもかまいません。
 - ・CD-ROM ドライブのドライブ名を、[CD-ROM ドライブ] で表記しています。入力の際は、お使いの環境に合わせて、ドライブ名を入力してください。
- [CD-ROMドライブ]:¥setup.exe

■画面例およびイラストについて

表記されている画面およびイラストは一例です。お使いの機種によって、実際に表示される画面やイラスト、およびファイル名などが異なることがあります。また、このマニュアルに表記されているイラストは説明の都合上、本来接続されているケーブル類を省略していることがあります。

■連続する操作の表記

- 本文中の操作手順において、連続する操作手順を、「→」でつないで表記しています。
- 例：「スタート」ボタンをクリックし、「プログラム」をポイントし、「アクセサリ」をクリックする操作
- ↓
- 「スタート」ボタン→「プログラム」→「アクセサリ」の順にクリックします。

■製品の呼び方

本文中の製品名称を、次のように略して表記します。

なお、本書ではお使いの OS 以外の情報もありますが、ご了承ください。

製品名称	本文中の表記
Microsoft® Windows® 2000 Server	Windows 2000 Server
Microsoft® Windows NT® Server Network Operating System Version 4.0	Windows NT Server 4.0
PRIMERGY C200	サーバ本体／本サーバ

■サーバのタイプの呼び方

本文中のタイプ名を次のように略して表記します。

タイプ	本文中の表記
内蔵ハードディスクユニットを搭載していないタイプ。	ディスクレスタイプ
ディスクレスタイプと区別するときに、OS がインストールされているタイプの総称。	OS インストールタイプ
Windows 2000 Server インストールタイプ。 特に断りのない限り、「OS インストールタイプ」に含まれます。	Windows 2000 タイプ
Windows 2000 Server インストールおよびアレイシステム構成タイプ。 特に断りのない限り、「OS インストールタイプ」に含まれます。	Windows 2000 アレイタイプ
Windows NT Server 4.0 インストールタイプ。 特に断りのない限り、「OS インストールタイプ」に含まれます。	NT 4.0 タイプ
Windows NT Server 4.0 インストールおよびアレイシステム構成タイプ。 特に断りのない限り、「OS インストールタイプ」に含まれます。	NT 4.0 アレイタイプ
Linux サービスバンドルタイプ。	Linux タイプ
Linux サービスバンドルアレイタイプ。	Linux アレイタイプ

また、本サーバの形態を区別して、以下の名称を用いて説明しています。

タイプ	本文中の表記
据え置きタイプ	ペディスタルタイプ 注意 取扱説明書に「デスクサイドタイプ」と表記のものは、ペディスタルタイプのことです。
ラックに搭載するタイプ	ラックマウントタイプ

警告ラベル／注意ラベル

本サーバには警告ラベルおよび注意ラベルが貼ってあります。

警告ラベルや注意ラベルは、絶対にはがしたり、汚したりしないでください。

VGA、PS/2 は、米国 IBM の米国での登録商標です。
Microsoft、Windows、MS、Windows NT は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標です。
Xeon は、米国インテル社の商標です。
Linux は、Linus Torvalds 氏の米国およびその他の国における登録商標あるいは商標です。
その他の各製品名は、各社の商標、または登録商標です。
その他の各製品は、各社の著作物です。

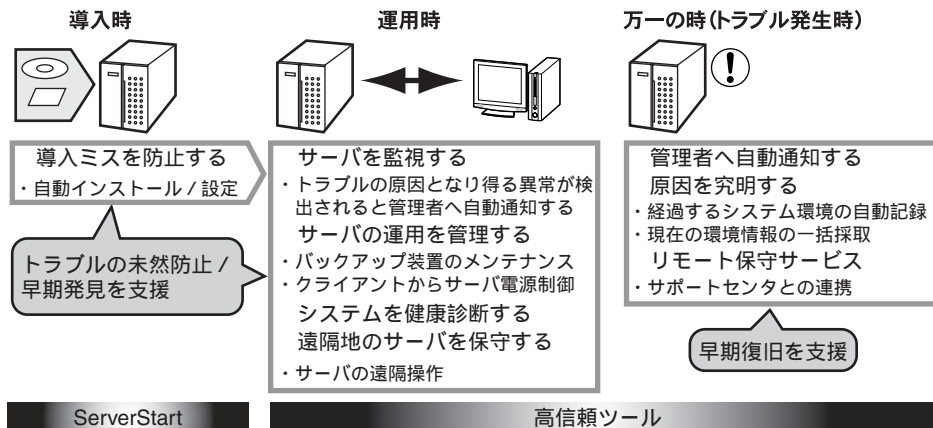
All Rights Reserved, Copyright© FUJITSU LIMITED 2002

画面の使用に際して米国 Microsoft Corporation の許諾を得ています。

簡単な導入と万全の運用

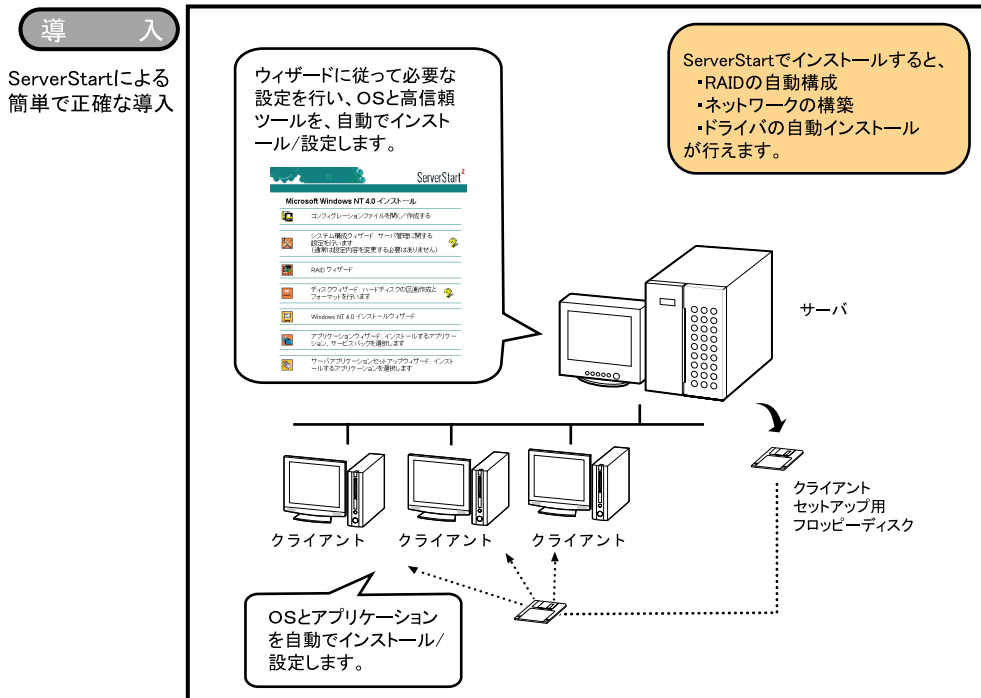
PRIMERGY では、ご購入時にメモリやハードディスクなどのオプション製品を搭載して出荷するカスタムメイドサービスを行っています。さらに、ラック搭載サービスやディスクアレイ設定サービスなどを実施するカスタムメイドプラスサービスも行っています。これらのサービスによって、導入時における作業と時間を短縮することができます。

また、弊社独自の支援ツール群により、サーバの簡単な導入と、万全な運用・管理を実現しています。



導入と運用の概要

PRIMERGY の導入と運用は、ServerStart と高信頼ツールにより、次のように行えます。



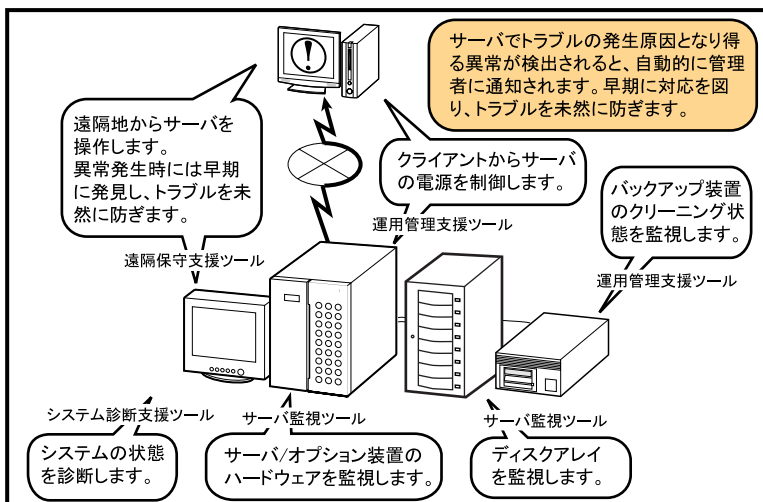
OS インストールタイプの場合は、ServerStart の「OS インストールタイプの開封」により、スムーズに開封できます。

Linux タイプ / Linux アレイタイプをご購入されたお客様は、これ以降の作業については、サーバ本体に同梱される Linux 関連マニュアルを参照ください。

また、ディスクレスタイプをご購入のお客様で Linux ディストリビューションをご使用のお客様は、弊社 PRIMESERVER WORLD の Linux 関連情報の Web ページ (<http://primeserver.fujitsu.com/primergy/linux/>) で確認してください。

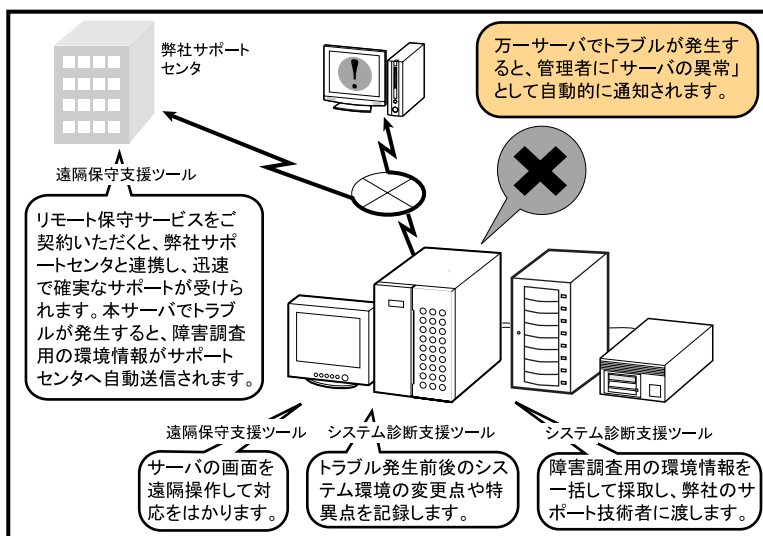
運用

高信頼ツール
によるトラブルの
未然防止/早期
発見



万一の時

高信頼ツール
によるトラブル発
生時の早期修復



高信頼ツールについて

- 高信頼ツールは、サーバ管理において、システムの安定稼動のために総合力を発揮するソフトウェア群です。通常運用時からトラブル発生時の復旧までを次の各ツールが役割を分担します。サーバ監視ツールは必ずインストールしてください。

ツール群	ツール	役割
サーバ監視ツール	ServerView	サーバ異常の早期発見
	RAID 管理ツール	ディスク異常の早期発見
	RAS 支援サービス	定期交換部品の状態監視
運用管理支援ツール	Tape Maintenance Checker	テープ装置の管理
	Power MANagement for Windows	効率的な電源制御
	Chronoworker/S	サーバ同士の時刻合わせ
システム診断支援ツール	FM Advisor	システムの健康診断
	PROBEPRO	トラブル原因の早期発見
	DSNAP	
遠隔保守支援ツール	SystemWalker / LiveHelp® Client	サーバの遠隔操作
	REMCS エージェント	サポートサービス

高信頼ツールは、ServerStart を使用して OS のインストールを行う際に、同時にインストールできます。各ツールについての概要など、詳細は『ソフトウェアガイド 第2部 第1章 高信頼性ツールについて』を参照してください。

本サーバの特長

本サーバには、以下のような特長があります。

高信頼性の実現

●ディスクアレイシステムを構成可能

オプションの SCSI アレイコントローラカードを使用して、ディスクアレイシステム (RAID0/1/5) を構成できます。

●冗長機能をサポート

ハードディスクは冗長機能をサポートしています。

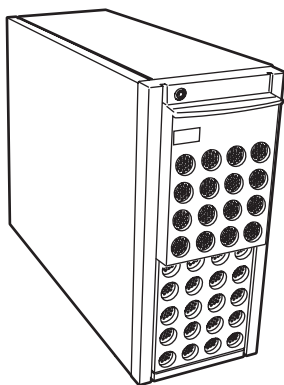
SCSI アレイコントローラカード使用時は、ハードディスクユニットの故障時に、本サーバおよび周辺装置の電源を切ることなく、ハードディスクユニットの交換および復旧作業を行うことができます (ホットプラグ対応。ただし、RAID 0 構成時を除く)。

●ハード/ソフト両面でのデータセキュリティを実現

サーバ本体内のハードウェアおよびソフトウェア資産を盗難などから守るため、ドライブカバーの施錠、および BIOS セットアップユーティリティによるセキュリティ設定 (パスワード設定) によって、信頼度の高いデータセキュリティを実現します。

●高信頼ツールの提供

前述の高信頼ツールにより、システムの安定稼動を実現します (「高信頼ツールについて」 (→ P.6))。



高速な処理

●Pentium® III プロセッサを搭載

データを高速に処理できる Pentium® III プロセッサを搭載しており、最大 2 個まで搭載できます。

●PCI を採用

本サーバには最大データ転送速度 533MB / 秒を誇る PCI バスを搭載しています。

●Ultra 160 SCSI をサポート (オンボード SCSI)

オンボード SCSI は、最大 160MB / 秒の転送速度を持つ Ultra 160 SCSI をサポートしていますので、高速データ転送を実現します。

余裕の拡張性

●メモリは最大 4GB

メモリは標準で 256MB 搭載しており、最大 4GB まで拡張できます。

●ハードディスクは最大 293.6GB

前面に最大 4 個の 3.5 インチサイズのハードディスクドライブ用ホットプラグベイを用意しており、最大 293.6GB まで拡張できます。

●3 つの 5 インチ内蔵オプションベイを用意

前面に 3 つの 5 インチ内蔵オプションベイを用意しています。うち 1 つのベイには内蔵 CD-ROM ドライブユニットを標準搭載しています。

●合計 6 つの PCI スロットを用意

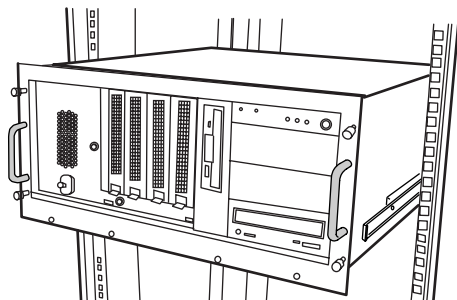
拡張スロットは、合計 6 つの PCI スロットを用意しています。

・ 64 ビット 66MHz × 4 スロット

・ 32 ビット 33MHz × 2 スロット

●ラックマウントタイプの提供

ベディスタルタイプにラックマウント変換機構を適用することにより、ラックにも搭載できます。



セットアップ

ここでは、開梱から ServerStart を使ってセットアップするときの運用までの流れを示しています。

以下の手順に従ってセットアップ作業を行ってください。

1	梱包物を確認する	8
2	内蔵オプションを取り付ける	8
3	設置場所を確認して設置する	9
4	周辺装置を接続する	10
5	電源を入れてハードウェアを設定する	10
6	ソフトウェアをインストールする	12
7	メモリダンプ用の領域を確保する	14
8	電源を切る	15
9	残りのオプション装置を取り付ける	15
10	システムの状態を確認／退避する	15
11	お客様登録	17

ここではペディスタルタイプを例に説明しています。

なお、ServerStart を使って Linux をインストールすることはできません。

1 梱包物を確認する

セットアップを開始します。

『梱包物一覧』を参照し、梱包物／添付品がそろっているか確認してください。万一、欠品などがございましたら、担当営業員に連絡してください。

カスタムメイドサービスを利用してご購入された場合は、添付の『カスタムメイドサービス実装・設定情報』および『構成成品一覧』を参照してください。

重要

- ▶ Windows NT Server 4.0 のインストール時に、2GB を超えるメモリを搭載していた場合、セットアップ起動時にエラーとなり、セットアップを継続できない場合があります。NT 4.0 アレイタイプでは、2GB を超えるメモリは装置に搭載せずに添付されています。添付のメモリは、Windows NT Server 4.0 のセットアップが完了したあとに搭載してください。

2 内蔵オプションを取り付ける

サーバ本体に内蔵オプションを取り付けます。

次の場合は、「3 設置場所を確認して設置する」(→ P.9) にお進みください。

- OS インストールタイプをご購入された場合
- カスタムメイドサービスを利用してご購入された場合
- 内蔵オプションを取り付けない場合

重要

- ▶ 次のオプションは、ServerStart を使って OS と必須ソフトウェアをインストールしたあとで取り付けてください。以下のオプションを取り付けたままインストール作業を行うと、異常終了することがあります。
 - ・ OS をインストールしないハードディスクユニット
 - ・ SCSI オプション装置（光磁気ディスクユニット、ハードディスクキャビネットなど）
 - ・ 搭載容量が 2GB を超えるメモリ（Windows NT Server 4.0 の場合）

準備する

内蔵オプションを取り付ける前に、本書および添付の『安全上のご注意』を熟読した上で、以下のものを準備してください。

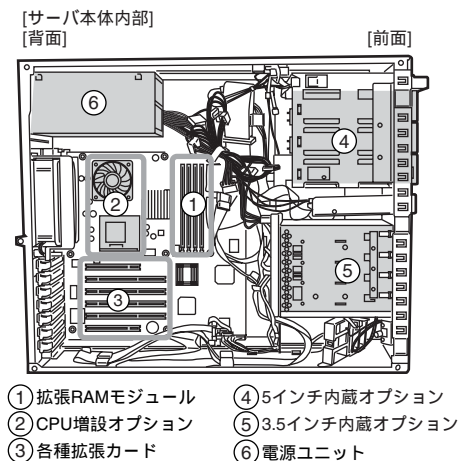
- プラスドライバとマイナスドライバ

重要

- ▶ 内蔵オプションは、基板や半田付けした部分がむきだしになっています。これらの部分は、人体に発生する静電気によって損傷を受ける場合があります。取り扱い前に、サーバ本体の金属部分に触れて人体の静電気を放電してください。また、基板表面、半田付け部、およびコネクタ部には触れないように、金具の部分や基板の縁を持つようにしてください。

内蔵オプションの種類と取り付け位置

内蔵オプションの種類と取り付け位置を示します。



実際に内蔵オプションを取り付ける場合は、以下のマニュアルを熟読の上、作業を行ってください。

→ 『取扱説明書 第5章 内蔵オプションの取り付け』

→ オプション装置に添付のマニュアル

POINT

- ▶ 内蔵オプションを搭載後、搭載場所や搭載順序が正しいこと、ケーブルが確実に接続されていることを確認してください。

3 設置場所を確認して設置する

『安全上のご注意』を熟読の上、本サーバを設置します。

POINT

- ▶ ラックマウントタイプに変換した場合は、『ラックマウント変換機構 取扱説明書』およびラックに添付のマニュアルを参照してください。

設置場所の条件

本サーバを設置するときは、以下の場所は避けてください。

- 湿気やほこり、油煙の多い場所
- 通気性の悪い場所
- 火気のある場所
- 風呂場、シャワー室などの水のかかる場所
- 直射日光の当たる場所や、暖房器具の近くなど、高温になる場所
- 周囲温度が 10 ～ 35℃ をはずれる場所
- 湿度が 20 ～ 80% をはずれる場所
- 塩害地域
- 腐食性ガスが発生する地域

- 電源ケーブルなどのケーブルが足にひっかかる場所
- テレビやスピーカーの近くなど、強い磁気が発生する場所
- 振動の激しい場所や傾いた状態など、不安定な場所

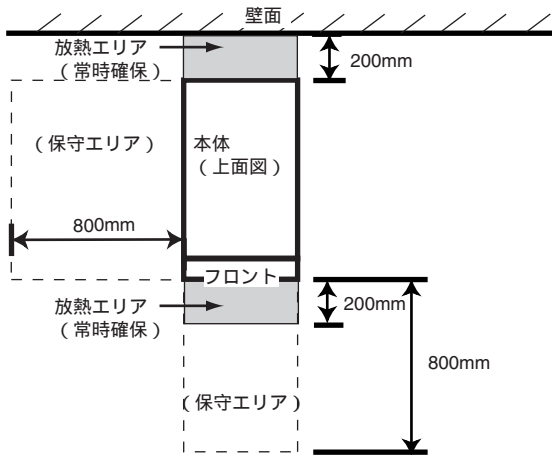
項目		設置条件
温度	動作時	10 ～ 35℃
	休止時	-5 ～ 55℃
湿度	動作時	20 ～ 80%RH (結露しないこと)
	休止時	
温度勾配	動作時	15℃/hr 以下 (結露しないこと)
	休止時	
AC 入力条件	電圧	AC100 ～ 120V
	周波数	50/60Hz
浮遊塵埃		0.15mg/m ³ 以下

重要

- ▶ 本サーバは、一般的な事務所への設置を考慮していません。静粛性を必要とする場所でのご使用時には、できる限り人とサーバ本体の設置場所を離すようにご配慮願います。

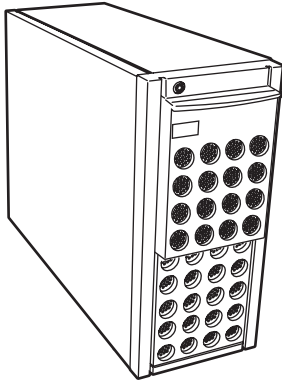
設置スペース

本サーバを設置するときは、放熱と保守用にスペースが必要です。以下のスペースを確保してください。



設置する

設置場所が決まったら、本サーバを設置場所に移動して設置します。



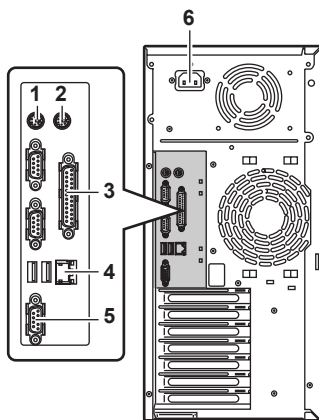
4 周辺装置を接続する

サーバ本体にキーボードやマウスなどの周辺装置を接続します。

『安全上のご注意』を熟読の上、周辺装置を接続します。

接続全体図

- 1 キーボード
- 2 マウス
- 3 プリンタ
- 4 LAN ケーブル
- 5 ディスプレイ
- 6 電源ケーブル



重要

- ▶ 電源ケーブルは、各周辺装置の接続が終了してから接続してください。

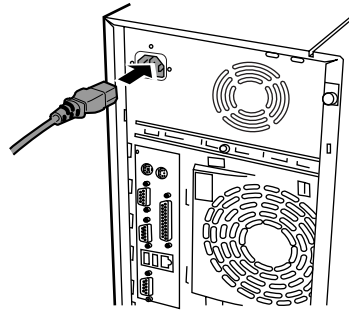
電源ケーブルの接続

すべての周辺機器を接続したら、最後にサーバ本体に電源ケーブルを接続します。

■接続手順

- 1 電源ケーブルをサーバ本体に接続します。

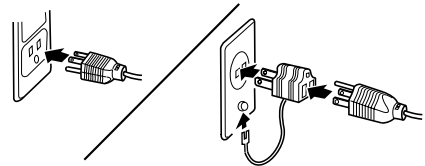
電源ケーブルのプラグを本サーバのインレットに接続します。



- 2 電源ケーブルをコンセントに接続します。

もう片方のプラグを、コンセントに接続します。

コンセントが2ピンの場合は、添付のアダプタプラグを取り付け、アダプタプラグについているアース線をコンセントのFGネジに接続します。そのあと、コンセントに接続します。



5 電源を入れてハードウェアを設定する

本サーバを正常に動作させるため、BIOS や SCSI のユーティリティを使ってハードウェアを設定します。

各ユーティリティの設定や詳細については、『取扱説明書 第4章 セットアップ』を参照してください。

重要

- ▶ 電源を入れた直後、必ず ServerStart CD-ROM をセットしてください。
- ▶ 通常、ハードウェアの設定は、ご購入時設定値から変更する必要はありません。
「2 内蔵オプションを取り付ける」(→ P.8) でオプション装置を取り付けた場合のみ、各ユーティリティ (BIOS セットアップユーティリティまたは SCSI コンフィグレーションユーティリティ) を起動して、ハードウェアの設定を確認/変更してください。

■BIOS セットアップユーティリティについて

次の場合に設定を変更します。

- 本サーバを起動するドライブを変更するとき
- POST 中にメッセージが表示されたとき
- 本サーバにパスワードを設定するとき
- OS を変更するとき

■SCSI コンフィグレーションユーティリティについて

次の場合に設定を変更します。

- SCSI オプション装置を取り付け／取り外したとき

重要

- ▶ Linux タイプ／Linux アレイタイプをご購入されたお客様は、これ以降の作業については、サーバ本体に同梱される Linux 関連マニュアルを参照ください。
また、ディスクレスタイプをご購入のお客様で Linux ディストリビューションをご使用のお客様は、弊社 PRIMESERVER WORLD の Linux 関連情報の Web ページ (<http://primeserver.fujitsu.com/primergy/linux/>) を参照してください。
Linux のセットアップ終了後は、「10 システムの状態を確認／退避する」(→ P.15) から参照してください。

電源を入れて ServerStart CD-ROM をセットする

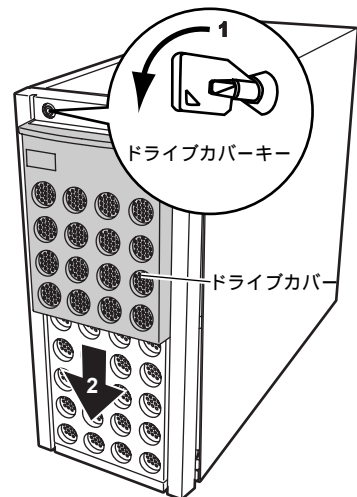
重要

- ▶ OS インストールタイプの場合で、ServerStart CD-ROM をセットせずにハードディスクから OS を起動してしまった場合は、絶対にセットアップをキャンセルしたり、サーバ本体の電源を切ったりしないでください。この場合、必ずセットアップを継続／完了させてください。ServerStart を使用せずにセットアップを継続／完了する方法については、『OS インストールタイプ設定の手引き』を参照してください。
- ▶ 本サーバの電源を入れた直後にファンが高速回転しますが、故障ではありません。サーバ本体環境条件の温度条件 (10 ～ 35℃) の範囲内であれば、しばらくしてから、通常の回転になります。

■手順

1 ドライブカバーを下げます。

ドライブカバーがロックされている場合は、ドライブカバーキーでロックを解除し、ドライブカバーを下げます。



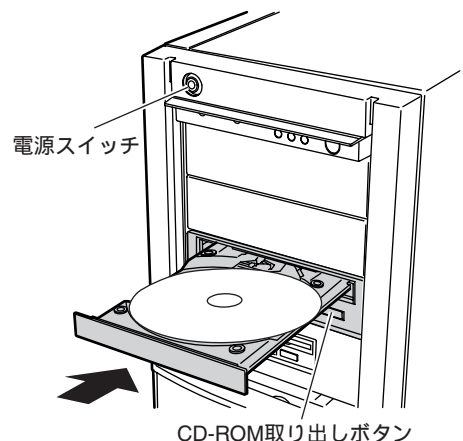
2 ディスプレイなどの周辺装置の電源を入れます。

3 ServerStart CD-ROM を準備します。

ServerStart CD-ROM を CD-ROM ドライブにセットできるように準備します。

4 電源を入れ、ServerStart CD-ROM をセットします。

サーバ本体前面の電源スイッチを押します。
すぐに、CD-ROM 取り出しボタン (EJECT) を押し、ServerStart CD-ROM をセットします。



- 5 オプション装置を取り付けた場合、各ユーティリティを起動してハードウェアを設定します。

・ BIOS セットアップユーティリティの起動

「<F2> BIOS Setup / <F12> BOOT Menu」と表示されたら、メッセージが表示されている間に、【F2】キーを押します。

・ SCSI コンフィグレーションユーティリティの起動

「Press Ctrl-C to start Symbios Configuration Utility...」と表示されている間に【Ctrl】+【C】キーを押します。

各ユーティリティの詳細については、『取扱説明書 第4章 セットアップ』を参照してください。

各ユーティリティを終了すると、本サーバが再起動します。

- 6 ServerStart フロッピーディスクをセットするようメッセージが表示されます。

「6 ソフトウェアをインストールする」(→ P.12) にお進みください。

6 ソフトウェアをインストールする

OS インストールタイプの場合は、「OS インストールタイプの開封」(→ P.13) を行ってください。それ以外の場合は「ガイドモードでインストールする」を行ってください。

ガイドモード以外のインストール方法については、『ソフトウェアガイド 第1部 第2章 サーバのインストール/セットアップ』を参照してください。

ガイドモードでインストールする

ガイドモードでは、ウィザードに従って設定を行い、サーバに OS と高信頼ツールをインストールします。

- 1 フロッピーディスクドライブに、ServerStart フロッピーディスクをセットして【作成】をクリックします。
ServerStart フロッピーディスクの作成画面が表示されます。
- 2 【ServerStart フロッピーディスクの作成】をクリックします。
「フロッピーの内容を消去します。よろしいですか？」のメッセージが表示されます。
- 3 【はい】をクリックします。
ServerStart フロッピーディスクが作成され、作成が完了するとメッセージが表示されます。

- 4 【OK】をクリックします。

ServerStart のメイン画面が表示されます。



- 5 【OS のインストール】をクリックします。
- 6 【Microsoft Windows Operating System のインストール】をクリックします。
- 7 インストールする OS をクリックします。
- 8 【(OS) のインストーラーガイドモード】をクリックします。

選択した OS のガイドモードが起動します。

(Windows NT Server 4.0 を選択した場合の画面例)



- 9 「コンフィグレーションファイルを開く / 作成する」をクリックします。
ファイル名「A:¥SerStartBatch. ini」を確認し、【作成】をクリックします。
- 10 順番にウィザードをクリックして、サーバ情報を入力していきます。
各ウィザード画面では、画面右側のガイドエリアに、項目の説明や、設定のヒントが表示されます。
各ウィザードについて、詳細は『ソフトウェアガイド 第1部 第2章 3 ガイドモード (事前設定モード)』を参照してください。

重要

- ▶ システム構成ウィザードは設定しません。システム構成ウィザードを起動した場合、正常にインストールされない場合があります。起動しないでください。

1. RAID ウィザード
RAID カードが搭載されている場合のみ表示されます。
2. ディスクウィザード
ハードディスクの区画作成と、フォーマットを行います。
3. (OS) インストールウィザード
コンピュータ情報、ユーザ情報、ネットワークプロトコルなどを設定します。
4. アプリケーションウィザード
クライアントセットアップのための WizardConsole や、高信頼ツールのインストールを設定します。
5. サーバアプリケーションセットアップウィザード
オールインワンタイプをご購入の場合は、インストールするサーバアプリケーションの設定を行います。
6. クライアント一括導入ウィザード
アプリケーションウィザードで WizardConsole をインストールした場合に、クライアントのセットアップ情報を設定します。

11 [コンフィグレーションファイルを閉じる / 保存する] をクリックします。

ファイル名「A:¥SerStartBatch」を確認し、[保存] をクリックします。

12 [インストールの開始] をクリックします。

13 [開始] をクリックします。

画面の指示に従って操作します。OS の CD-ROM をセット後、使用許諾画面が表示されます。

画面の指示に従って操作してください。

重要

- ▶ 設定した内容に誤りがあると、エラーが表示されます。正しい値を直接入力して、処理を続行してください。
- ▶ ファイルコピーが終了すると、CD-ROM およびフロッピーディスクを抜くよう、メッセージが表示されます。必ず指示に従って、CD-ROM およびフロッピーディスクを取り出してください。
- ▶ サーバアプリケーションのインストールを設定した場合は、アプリケーションセットアップ画面が表示されます。BrighStor ARCserve 2000 をインストールする場合は、「ARCserve 2000」を選択し、「アプリケーション資源の設定」画面の「アプリケーション CD-ROM ボリューム名」を「As2000awej」に変更してください。
- ▶ RAID カードをお使いの場合、RAID ユーティリティのインストールが行われます。インストールの最後で再起動を行うかのメッセージが表示された場合、再起動しないようにしてください。
- ▶ インストールする OS が Windows NT Server 4.0 の場合は、修復ディスクの作成画面が表示されます。新しいフロッピーディスク 1 枚を用意し、修復ディスクを作成してください。

すべての処理が終了すると、インストールした OS が起動します。これでインストールは終了です。

OS インストール後、サーバを運用する前に、『ソフトウェアガイド 第 4 章 OS インストール後の操作』を参照し、必要な設定を行ってください。

OS インストールタイプの開封

OS インストールタイプの開封を行います。高信頼ツールのインストールも自動的に行えます。

1 フロッピーディスクドライブに、添付の ServerStart フロッピーディスクをセットして [作成] をクリックします。

OS プレインストールタイプの開封を行うか、新規インストールを行うかのメッセージが表示されます。

2 [OK] をクリックします。

ServerStart フロッピーディスク作成画面が表示されます。

3 [ServerStart フロッピーディスクの作成] をクリックします。

「フロッピーの内容を消去します。よろしいですか？」のメッセージが表示されます。

4 [はい] をクリックします。

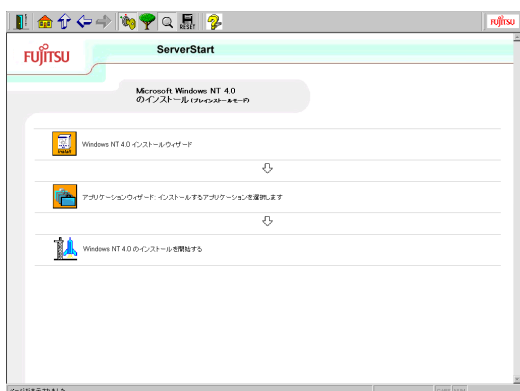
ServerStart フロッピーディスクが作成され、作成が完了するとメッセージが表示されます。

5 [OK] をクリックします。

6 ご購入のタイプに応じた [(OS) プレインストールタイプの設定] をクリックします。

プレインストールモードが起動します。

(Windows NT 4.0 の場合の画面例)



7 順番にウィザードをクリックして、OS インストールタイプの開封情報を入力します。各ウィザード画面では、画面右側のガイドエリアに、項目の説明や、設定のヒントが表示されます。

各ウィザードの設定について、詳細は『ソフトウェアガイド 第1部 第2章 5.2 プレインストールモードで開封する』を参照してください。

1. (OS) インストールウィザード

コンピュータ情報、ユーザ情報、ネットワークプロトコルなどを設定します。

2. アプリケーションウィザード

クライアントセットアップのための WizardConsole や、高信頼ツールのインストールを設定します。

8 「(OS) のインストールを開始する」をクリックします。

使用許諾画面が表示されます。

画面の指示に従って操作してください。

重要

- ▶ 設定した内容に誤りがあると、エラーが表示されません。正しい値を直接入力して、処理を続行してください。
- ▶ 開封するインストール OS が Windows NT Server 4.0 の場合は、修復ディスクの作成画面が表示されます。新しいフロッピーディスク 1 枚を用意し、修復ディスクを作成してください。
- ▶ インストール途中、アプリケーションの CD-ROM をセットするようにメッセージが表示された場合は、指示に従って、CD-ROM をセットしてください。また、サーバのインストール途中は、再起動は行わないでください。すべての処理が終了し、再起動する場合は、必ず CD-ROM およびフロッピーディスクを取り出ししてから再起動してください。

すべての処理が終了すると、OS が起動します。これでインストールタイプの開封は終了です。

OS インストール後、サーバを運用する前に、『ソフトウェアガイド 第4章 OS インストール後の操作』を参照し、必要な設定を行ってください。

7 メモリダンプ用の領域を確保する

メモリダンプを取得するための設定を行います。メモリダンプの設定をしておくと、STOP エラー（致命的なシステムエラー）が発生した場合に、自動的にデバッグ情報が保存されます。保存されたメモリダンプにより、エラー発生時の原因を分析するのに役立ちます。

メモリダンプを取得するには、ページングファイルとメモリダンプファイルの作成用に、それぞれ以下のディスク空き容量が必要です。

重要

- ▶ OS が Windows NT Server 4.0 で 2GB を超えるメモリが添付されている場合、メモリの増設が終了したあとでメモリダンプ取得のための設定を行ってください。

● Windows 2000 Server の場合

種類	ページングファイル (*1)	メモリダンプファイル (*2)
最小メモリダンプ (64KB)	2MB 以上	64KB
カーネルメモリダンプ	搭載メモリサイズによって、50 ～ 800MB	
完全メモリダンプ	搭載メモリ容量 +1MB 以上	搭載メモリ容量

●Windows NT Server 4.0 の場合

ファイルの種類	必要な空き容量
ページングファイル (*1)	システムがインストールされているドライブに「搭載メモリサイズ+ 11MB」以上の空き容量。
メモリダンプファイル (*2)	任意のドライブに「搭載メモリサイズと同量」の空き容量。

*1) システムがインストールされているドライブに必要な空き容量。
Windows NT Server 4.0 の場合は、ページングファイルは、OS インストール時に作成されます。ファイル名は、PAGEFILE.SYS となります。

*2) 任意のドライブに必要な空き容量。
Windows NT Server 4.0 の場合は、メモリダンプファイルは、STOP エラー発生時にしか作成されません。STOP エラー発生時に空き容量がなくなっていないように常に確保しておいてください。

設定方法については、『取扱説明書 A.5 メモリダンプの取得』を参照してください。

8 電源を切る

いったん電源を切ります。

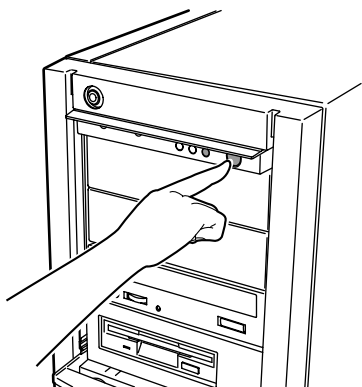
重要

- ▶ 次の操作手順で電源を切ってください。操作手順に反すると、データが破壊されるおそれがあります。
- ▶ 電源を切ったあと、再び電源を入れるときは10秒以上待ってから電源スイッチを押してください。電源を切ったあとすぐに電源を入れると、サーバ本体の誤動作、および故障の原因になります。

1 フロッピーディスクドライブおよび CD-ROM ドライブなどに媒体が挿入されていないことを確認します。

2 OS を終了します。

OS 終了後、サーバ本体の電源が自動的に切れます。
OS を終了してもサーバ本体の電源が切れない場合は、サーバ本体前面の電源スイッチを押します。



3 ディスプレイなどの周辺装置の電源を切ります。

9 残りのオプション装置を取り付ける

UPS 装置や「2 内蔵オプションを取り付ける」(→P.8) で取り付けられなかったオプション装置を取り付けます。
すべてのオプション装置が接続されている場合は、「10 システムの状態を確認／退避する」(→P.15) へお進みください。

POINT

- ▶ オプション装置の取り付け終了後、必要に応じて BIOS セットアップユーティリティや SCSI コンフィグレーションユーティリティの設定を行ってください。設定方法は、『取扱説明書 第4章 セットアップ』を参照してください。

10 システムの状態を確認／退避する

すべての設定が終了したら、システムの状態を確認すると共に、システムの設定情報を退避します。

システムの設定内容と状態を確認する

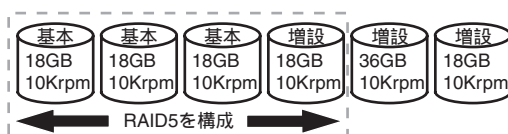
ハードウェアの接続やソフトウェアの設定が正しく行われているか確認してください。

また、運用を開始する前に、特に注意していただきたい点を以下に示します。

●OS インストールタイプに関する留意事項

- ・主要インストールドライバの情報を『ドライブ情報』に記載しています。
- ・ハードディスクの区画は、以下のとおり作成してあります。
 - ・メンテナンス区画：150MB
 - ・システム区画：4GB
- ・アレイタイプは、基本ハードディスクおよび基本ハードディスクと同一容量／同一回転数のオプションハードディスクをひとまとめにして RAID5 を構成しています。それ以外のオプションハードディスクは初期化されていませんので初期化してから使用してください。

例)



- ・アレイタイプは、システムドライブをバックグラウンド初期化処理 (BGI) を適用しています。SCSI アレイコントローラカードの取扱説明書に、BGI に関する注意事項が記載されているので必ずご一読ください。

●ディスクレスタイプに関する留意事項

ディスクレスタイプに SCSI アレイコントローラカード (PGB141B を除く) を手配して、SCSI ケーブル接続機構 (PGBCBLS012) を同時手配していない場合は、本体内部の SCSI ケーブルはオンボード SCSI コネクタに接続されています。必要に応じて SCSI アレイコントローラカードの接続を変更してください。

●Linux タイプに関する留意事項

システム区画については、サーバ本体に同梱される Linux 関連マニュアルを参照してください。

●ServerView のインストール

運用を開始する前に、ServerView を必ずインストールしてください。

→『ソフトウェアガイド 第2部 第2章 サーバ監視ツール [ServerView]』

●メモリダンプを取得するための設定

メモリダンプを取得するための設定を行ってください。

→『取扱説明書 A.5 メモリダンプの取得』

●BIOS セットアップユーティリティの変更

BIOS セットアップユーティリティについては、『取扱説明書 第4章 セットアップ』を参照してください。

BIOS の版数が Rev.1.04 以降の場合は、設定項目が異なりますのでご注意ください。

- ・ UPS 使用時の Power Failure Recovery 設定
以下の条件をすべて満たす場合は、「Advanced」 - 「Power On/Off」メニュー内の「Power Failure Recovery」項目を「Always ON」に設定してください。
- ・ OS が Linux・Windows のような、シャットダウン後に電源が切れる OS の場合
- ・ ServerView をインストールしている場合
- ・ UPS を使用したスケジュール運転を行なう場合
ご購入時設定値 (Previous State) では、UPS にて復電された際、システムが起動しません。

POINT

- ▶ ServerView から設定できます。
ServerView から設定することをお奨めします。

●ServerView インストール後のブートウォッチドッグ設定

ServerView をインストールしたあとは、「ブートウォッチドッグ」の機能を有効に設定することをお奨めします。
『ServerView ユーザーズガイド 第3章 9 ServerView』で「アクション」の項目をご覧ください。

●BIOS セットアップユーティリティの設定情報の復元

BIOS セットアップユーティリティの設定情報を、構成ごとに「Server Management Tools」フロッピーディスクに格納してあります。本ツールを使用して、設定情報をご購入時の状態に復元できます。「Server Management Tools」の使用方法については、『取扱説明書 第4章 セットアップ』を参照してください。

●UPS のシャットダウン時間の設定

UPS の電源断時間 (シャットダウン指示から電源断までの時間) は、十分な時間を設定してください。

この時間が短いと、システムがシャットダウンする前に電源が切れてしまい、データが破壊されるおそれがあります。

詳細については、UPS に添付の以下を参照してください。

NetpowerProtect をご使用の場合：

「システムシャットダウン時の注意事項について」

Smart-UPS をご使用の場合：

「PowerChute plus users guide (日本語版)」

●コンフィグレーションシートへの記入

「コンフィグレーションシート」(→ P.20) にハードウェア構成や BIOS セットアップユーティリティなどの設定値を記入してください。

重要

- ▶ 記入したシートは、紛失しないように大切に保管してください。システムに異常が発生したときやオプションの増設時に必要になります。

システムの設定情報を退避する

内蔵バッテリーの消耗によって、BIOS セットアップユーティリティで設定した情報が失われることがあります。システム情報を退避しておくことによって、失われた設定情報を元の状態に復元できます。

→『取扱説明書 第4章 セットアップ』

退避手順を以下に示します。

1 ServerStart CD-ROM から、「ハードウェア構成ツール起動用フロッピーディスク」を作成します。

1. サーバ本体の電源を入れ、ServerStart CD-ROM をセットします。
「フロッピーディスクドライブに、ServerStart フロッピーディスクをセットしてください」というメッセージが表示されます。
2. ServerStart に添付の「ServerStart フロッピーディスク」を本体にセットして、[作成] をクリックします。
3. 「ServerStart フロッピーディスクを挿入し ServerStart を起動する」をクリックします。
ServerStart の画面が表示されます。
4. 「フロッピービルダ」をクリックします。
フロッピービルダの画面が表示されます。

5. 「ハードウェア構成ツール起動用フロッピーディスクの作成」をクリックします。

メッセージに従って、本サーバに添付の「ハードウェア構成ツール起動用フロッピーディスク」をフロッピーディスクドライブにセットしてください。

6. 以降は画面のメッセージに従い、「ハードウェア構成ツール起動用フロッピーディスク」を作成します。

- 2 画面左上の [Exit] ボタンをクリックし、メッセージに従い ServerStart CD-ROM とフロッピーディスクを抜きます。



- 3 サーバ本体の電源を切ります。

「ハードウェア構成ツール起動用フロッピーディスク」から起動するため、いったんサーバ本体の電源を切ります。

- 4 サーバ本体に電源を入れ、ハードウェア構成ツール起動用フロッピーディスクをセットします。

Startup Menu が表示されます。

- 5 「Server Management Tool」を選択し、【Enter】キーを押します。

DOS プロンプトが表示されたら、フロッピーディスクを取り出します。

- 6 「Server Management Tools」ディスクをフロッピーディスクドライブにセットします。

以下のコマンドを入力して、システム情報を退避します。

```
A:\>read.bat 【Enter】
```

これで運用のための準備が終了しました。

運用開始後は、未然にトラブルを防止するためにも定期的にサーバ本体などのお手入れを行ってください（→『取扱説明書 第7章 日常のお手入れ』を参照してください）。

11 お客様登録

最後に、お客様登録をお願いします。

PRIMERGY シリーズでは、お客様登録をお願いしています。お客様登録を行っていただくことにより、お客様への保守サービスが円滑に実施されます。

お客様登録の方法は、本サーバに添付の保証書に記載されています。登録方法には、以下の3つがあります。

- レジストレーション登録（リモート接続による登録）
- Web 登録（<http://www.fujitsu-osc.ne.jp/regist>）
- Fax 登録

お客様登録をされた場合と、されない場合とでは、無償修理期間が以下のとおり異なります。

- お客様登録をされた場合
ご購入後 1 年間
- お客様登録をされない場合
ご購入後 3 ヶ月間

サポート & サービス

本サーバの保守について説明します。

保証について

本サーバには、保証書が添付されています。保証書の記載内容をご確認の上、大切に保管してください。

保証期間中に故障が発生した場合には、保証書の記載内容に基づき無償修理いたします。

詳細については、保証書をご覧ください。

保守サービスについて

■PRIMESERVER WORLD 会員サービスについて

PRIMESERVER WORLD では、お客様を対象にした会員サービスをご提供しております（入会無料）。

本サービスは、ご利用のマシンをお使いの際に有効な詳細技術情報、ご利用者間の情報交換の場～談話室、新着情報やセミナー等のメールサービスをご提供いたします。

会員サービスについては、以下を参照してください。

<http://primeserver.fujitsu.com/members.html>

皆様のご入会を、心よりお待ちしております。

■無償修理

本サーバは、保証書に記載された無償修理期間には、無償にて訪問修理を行っています。

なお、無償修理期間外の修理のご相談は、担当営業員または担当保守員に連絡してください。

無償修理に際しては、保証書を必ずご用意ください。

なお、お客様登録をされた場合と、されない場合とでは、無償修理期間が以下のとおり異なります。

- ・お客様登録をされた場合
ご購入後 1 年間
- ・お客様登録をされない場合
ご購入後 3 ヶ月間

■保守サポート期間について

保守サポート期間は、お客様のサーバご購入後 5 年間です。

■定期交換部品について

お客様の使用環境や使用時間により、サーバの一部の部品で保守サポート期間内に、交換が必要となる定期交換部品があります。

導入時より SupportDesk 契約またはハードウェア保守契約の定期保守契約を結ばれたお客様においては、定期交換部品の交換費用（交換部品代および交換作業代）はサービス料金に含まれており、優先的に交換いたします。なお、SupportDesk 契約が未契約、ハードウェア保守契約が定額訪問契約、またはハードウェア保守契約が未契約のお客様には、別途ご請求させていただきます。

POINT

- ▶ 本サーバでは、システムの安定稼働を目的に、保守サービス契約を結ばれることを推奨しております。
定期交換部品の交換時期については、以下を参考にしてください。

●定期交換部品の交換時期

定期交換部品の交換周期は、いずれも適切な使用環境下での運用を前提としています。

動作保証範囲は 10 ～ 35 ℃ですが、交換時期は平均使用温度 25 ℃での運用を想定しており、空調のある常温で使用してください。

●定期交換部品

・電源ユニット

本サーバには 1 個あり、交換が必要です。24 時間／日運転では約 3 年間を経過すると交換時期となります。10 時間以内／日運転では保守サポート期間内に交換時期となりません。

・冷却ファン

本サーバには 1 個あり、交換が必要です。24 時間／日運転では約 3 年間を経過すると交換時期となります。10 時間以内／日運転では保守サポート期間内に交換時期となりません。

・プロセッサのファン

本サーバには最大 2 個あり、交換が必要です。24 時間／日運転では約 3 年間を経過すると交換時期となります。10 時間以内／日運転では保守サポート期間内に交換時期となりません。

・SCSI アレイコントローラカード (PG-142C) のバッテリー

電源の投入／切断時間にかかわらず約 2 年を経過すると交換時期となります。

・高機能無停電電源装置のバッテリー

電源の投入／切断時間にかかわらず約 2 年を経過すると交換時期となりますが、周囲温度により、バッテリー寿命が短縮されることがあります。詳細につきましては、高機能無停電電源装置の取扱説明書をご覧ください。

●定期交換部品の交換時期の表示（Windows 2000 Server / Windows NT Server 4.0 の場合）

RAS 支援サービスをインストールすることで、部品の交換を促すメッセージをサーバのパネルやコンソールに表示させることができます。メッセージは、数ヶ月以内に交換を促す、おおよその目安を示しており、メッセージが表示されましたら保守サービス窓口にご連絡ください。

修理ご依頼の前に

本サーバに異常が発生した場合は、『取扱説明書 8.1 トラブルシューティング』または『ソフトウェアガイド 付録 A トラブルシューティング』を参照してください。それでも解決できない異常については、担当営業員または担当保守員に連絡してください。なお、修理のご依頼前に、『取扱説明書 8.4 保守員に連絡するときは』をご覧ください、修理ご依頼前の確認事項について、ご確認をお願いいたします。

リサイクルについて

■サーバ本体の廃棄について

本サーバを廃却する場合、担当営業員または担当保守員に相談してください。本サーバは産業廃棄物として処理する必要があります。

なお、サーバを使用していた状態のまま廃棄すると、ハードディスク内の情報を第三者に見られてしまう恐れがあります。廃棄するときは、すべてのドライブをフォーマットすることをお勧めします。

ただし、フォーマットやファイルを削除しただけでは、悪意を持った第三者によってデータが復元される可能性があります。機密情報や見られたくない情報を保存していた場合には、市販のデータ消去ソフトなどを利用して、データを消去し、復元されないようにすることをお勧めします。

■使用済電池の廃却について

使用済電池を廃棄する場合は、産業廃棄物の扱いとなりますので、産業廃棄物処分業の許可を取得している会社へ処分を委託してください。

■液晶ディスプレイの廃棄について

液晶ディスプレイを廃棄する場合は、産業廃棄物の扱いとなりますので、産業廃棄物処分業の許可を取得している会社へ処分を委託する必要があります。

コンフィグレーションシート

本サーバにおけるハードウェアの構成と各種セットアップの設定値を記録しておきます。

選択設定箇所については□マークのチェックボックスを用意してありますので、設定したチェックボックスを塗りつぶすか、またレ印を付けておきます。

なお、ご購入時の初期値は◎で示しています。また、変更禁止の設定項目については■で示しています。

ハードウェア構成

■5 インチ内蔵オプション（SCSI-ID は装置で設定すること）

搭載位置	搭載 5 インチ内蔵オプション（型名）	SCSI ID
5 インチ ベイ	◎内蔵 CD-ROM ドライブユニット または □内蔵 DVD-ROM ドライブユニット	
	□内蔵 DDS4 ユニット（PG-DT401）	□ 5 □ 6
	□内蔵 DDS4 オートローダ（PG-DTA102）	□ 5
	□内蔵光磁気ディスクユニット（PG-PD237）	□ 5 □ 6
	□内蔵光磁気ディスクユニット（1.3GB） （PG-PD239）	□ 5 □ 6
	□内蔵 SLR60 ユニット（PG-SL601）	□ 5 □ 6
	□内蔵 SLR100 ユニット（PG-SL101）	□ 5 □ 6

■3.5 インチ内蔵オプション

搭載位置	搭載 3.5 インチ内蔵オプション		
ベイ 4	□ 18.2GB	□ 36.4GB	□ 73.4GB
ベイ 3	□ 18.2GB	□ 36.4GB	□ 73.4GB
ベイ 2	□ 18.2GB	□ 36.4GB	□ 73.4GB
ベイ 1	□ 18.2GB	□ 36.4GB	□ 73.4GB

■CPU

搭載タイプ	搭載個数（*1）
□ Pentium®III 1.26GHz / 512KB	◎ 1 個 □ 2 個
□ Pentium®III 1BGHz	

*1) 全モデルで CPU を 1 個搭載しています。

■RAM モジュール

搭載スロット位置	搭載 RAM モジュール
DIMM スロット 0A (*1)	◎ 128MB □ 256MB □ 512MB □ 1GB
DIMM スロット 1A	□ 128MB □ 256MB □ 512MB □ 1GB
DIMM スロット 0B (*1)	◎ 128MB □ 256MB □ 512MB □ 1GB
DIMM スロット 1B	□ 128MB □ 256MB □ 512MB □ 1GB

*1) 全モデルに 256MB を DIMM スロット 1-1 および DIMM スロット 1-2 に実装済み（カスタムメイドサービスをご利用の場合を除きます）。

■オプションカード

拡張カード（型名）	PCI スロット					
	1	2	3	4	5	6
SCSI アレイコントローラカード (PG-141B)	—	□	—	—	—	—
SCSI アレイコントローラカード (PG-142B / PG-142C)	—	□	□	—	—	—
SCSI カード (PG-128)	—	□	□	□	□	—
SCSI カード (PG-129)						
SCSI アレイコントローラカード同時搭載有	□	—	—	—	—	—
SCSI アレイコントローラカード同時搭載無	—	□	□	□	□	—
ファイバーチャネルカード (PG-FC102)	—	□	□	□	□	—
ファイバーチャネルカード (PG-FC103)	—	□	□	□	□	—
リモートサービスボード (PG-RSB101)	—	—	—	—	—	□
LAN カード (PG-188)	—	□	□	□	□	—
LAN カード (PG-189)	—	□	□	□	□	—
LAN カード (PG-185)	□	□	□	□	□	□
LAN カード (PG-1871)	□	□	□	□	□	□
ISDN 接続 G3/G4FAX 通信カード (GP5-161)	□	—	—	—	—	—
FAX モデムカード (FMV-FX533)	□	—	—	—	—	□
通信カード V/X (GP5-163)	□	—	—	—	—	□
ISDN カード (GP5-165)	□	—	—	—	—	□
RS-232C カード (GP5-162)	□	□	□	□	□	□

—：搭載不可を示す

BIOS セットアップ項目（BIOS 版数 Rev.1.04 以降は設定値が異なります）

■Main メニューの設定項目

設定項目	設定値（■：変更禁止 ◎：ご購入時設定値）
System Time	現在の時刻
System Date	現在の日付
Diskette A	□ None □ 360K □ 1.2M □ 720K ■ 1.4M
IDE Drive 1	【Press Enter】（本サーバでは使用しません。）
Type	■ Auto □ None □ CD-ROM □ Diskette 120M/ZIP □ Other ATAPI □ User
Transfer Mode	■ Disabled □ 2Sectors □ 4Sectors □ 8Sectors □ 16Sectors
LBA Translation	■ Disabled □ Enabled

設定項目	設定値 (■ : 変更禁止 ◎ : ご購入時設定値)
LBA Translation Mode	■ LBA □ PTL □ CHS
PIO Mode	■ Standard □ PIO 1 □ PIO 2 □ PIO 3 □ PIO 4 □ PIO3/DMA1 □ PIO4/DMA2 □ PIO4/UDMA16 □ PIO4/UDMA25 □ PIO4/UDMA33 □ PIO4/UDMA44 □ PIO4/UDMA66
32Bit I/O	□ Disabled ■ Enabled
IDE Drive 2	【Press Enter】 (本サーバでは使用しません。)
Type	■ Auto □ None □ CD-ROM □ Diskette 120M/ZIP □ Other ATAPI □ User
Transfer Mode	■ Disabled □ 2Sectors □ 4Sectors □ 8Sectors □ 16Sectors
LBA Translation	■ Disabled □ Enabled
LBA Translation Mode	■ LBA □ PTL □ CHS
PIO Mode	■ Standard □ PIO 1 □ PIO 2 □ PIO 3 □ PIO 4 □ PIO3/DMA1 □ PIO4/DMA2 □ PIO4/UDMA16 □ PIO4/UDMA25 □ PIO4/UDMA33 □ PIO4/UDMA44 □ PIO4/UDMA66
32Bit I/O	□ Disabled ■ Enabled
IDE Drive 3	【Press Enter】
Type	□ Auto □ None ■ CD-ROM □ Diskette 120M/ZIP □ Other ATAPI □ User
Transfer Mode	■ Disabled □ 2Sectors □ 4Sectors □ 8Sectors □ 16Sectors
LBA Translation	■ Disabled □ Enabled
LBA Translation Mode	■ LBA □ PTL □ CHS
PIO Mode	■ Standard □ PIO 1 □ PIO 2 □ PIO 3 □ PIO 4 □ PIO3/DMA1 □ PIO4/DMA2 □ PIO4/UDMA16 □ PIO4/UDMA25 □ PIO4/UDMA33 □ PIO4/UDMA44 □ PIO4/UDMA66
32Bit I/O	□ Disabled ■ Enabled
IDE Drive 4	【Press Enter】 (本サーバでは使用しません。)
Type	■ Auto □ None □ CD-ROM □ Diskette 120M/ZIP □ Other ATAPI □ User
Transfer Mode	■ Disabled □ 2Sectors □ 4Sectors □ 8Sectors □ 16Sectors
LBA Translation	■ Disabled □ Enabled
LBA Translation Mode	■ LBA □ PTL □ CHS
PIO Mode	■ Standard □ PIO 1 □ PIO 2 □ PIO 3 □ PIO 4 □ PIO3/DMA1 □ PIO4/DMA2 □ PIO4/UDMA16 □ PIO4/UDMA25 □ PIO4/UDMA33 □ PIO4/UDMA44 □ PIO4/UDMA66
32Bit I/O	□ Disabled ■ Enabled
Boot Options	【Press Enter】
POST Errors	□ No Halt On Any Errors ■ Halt On All Errors
Fast Boot	■ Disabled □ Enabled
Quiet Boot	■ Disabled □ Enabled
Boot Sequence	(ブート順を記入) □ CD-ROM Drive □ Diskette □ Hard Drive □ Legacy LAN Card
MultiBoot for HDs	■ Disabled □ Enabled
Base Memory	1MB 以下の使用可能なベースメモリが表示されます。
Extended Memory	1MB 以上のメモリサイズが表示されます。

■Advanced メニューの設定項目

設定項目	設定値 (■ : 変更禁止 ◎ : ご購入時設定値)
Peripheral Configuration	【Press Enter】
Serial 1	□ Disabled □ Enabled ◎ Auto □ OS Controlled
Serial 1 Address	□ 2E8h,IRQ3 □ 2F8h,IRQ3 □ 3E8h,IRQ4 ◎ 3F8h,IRQ4
Serial 2	□ Disabled □ Enabled ◎ Auto □ OS Controlled
Serial 2 Address	□ 2E8h,IRQ3 ◎ 2F8h,IRQ3 □ 3E8h,IRQ4 □ 3F8h,IRQ4
Parallel	□ Disabled □ Enabled ◎ Auto □ OS Controlled
Parallel Mode	□ Printer ◎ Bidirection □ EPP □ ECP
Parallel Address	◎ 378h,IRQ7 □ 278h,IRQ5 □ 3BCh,IRQ7
Diskette Controller	□ Disabled ■ Enabled
Hard Disk Controller	□ Disabled □ Primary ■ Primary And Secondary
Mouse Controller	□ Disabled □ Enabled ◎ Auto Detect
SCSI Controller	□ Disabled ◎ Enabled
SCSI Option ROM Scan	□ Disabled ◎ Enabled
SCSI Termination LVD	□ Disabled ◎ Enabled
LAN Controller	□ Disabled ◎ Enabled

設定項目	設定値 (■ : 変更禁止 ◎ : ご購入時設定値)
LAN Remote Boot	◎ Disabled □ PXE □ BootP
PCI Configuration	【Press Enter】
PCI IRQ Line 0	□ Disabled ◎ Auto □ IRQ 3 □ IRQ 4 □ IRQ 5 □ IRQ 6 □ IRQ 7 □ IRQ 9 □ IRQ 10 □ IRQ 11 □ IRQ 12 □ IRQ 14 □ IRQ 15
PCI IRQ Line 1	□ Disabled ◎ Auto □ IRQ 3 □ IRQ 4 □ IRQ 5 □ IRQ 6 □ IRQ 7 □ IRQ 9 □ IRQ 10 □ IRQ 11 □ IRQ 12 □ IRQ 14 □ IRQ 15
PCI IRQ Line 2	□ Disabled ◎ Auto □ IRQ 3 □ IRQ 4 □ IRQ 5 □ IRQ 6 □ IRQ 7 □ IRQ 9 □ IRQ 10 □ IRQ 11 □ IRQ 12 □ IRQ 14 □ IRQ 15
PCI IRQ Line 3	□ Disabled ◎ Auto □ IRQ 3 □ IRQ 4 □ IRQ 5 □ IRQ 6 □ IRQ 7 □ IRQ 9 □ IRQ 10 □ IRQ 11 □ IRQ 12 □ IRQ 14 □ IRQ 15
PCI IRQ Line 4	□ Disabled ◎ Auto □ IRQ 3 □ IRQ 4 □ IRQ 5 □ IRQ 6 □ IRQ 7 □ IRQ 9 □ IRQ 10 □ IRQ 11 □ IRQ 12 □ IRQ 14 □ IRQ 15
PCI IRQ Line 5	□ Disabled ◎ Auto □ IRQ 3 □ IRQ 4 □ IRQ 5 □ IRQ 6 □ IRQ 7 □ IRQ 9 □ IRQ 10 □ IRQ 11 □ IRQ 12 □ IRQ 14 □ IRQ 15
PCI IRQ Line 6	□ Disabled ◎ Auto □ IRQ 3 □ IRQ 4 □ IRQ 5 □ IRQ 6 □ IRQ 7 □ IRQ 9 □ IRQ 10 □ IRQ 11 □ IRQ 12 □ IRQ 14 □ IRQ 15
PCI IRQ Line 7	□ Disabled ◎ Auto □ IRQ 3 □ IRQ 4 □ IRQ 5 □ IRQ 6 □ IRQ 7 □ IRQ 9 □ IRQ 10 □ IRQ 11 □ IRQ 12 □ IRQ 14 □ IRQ 15
PCI IRQ Line 8	□ Disabled ◎ Auto □ IRQ 3 □ IRQ 4 □ IRQ 5 □ IRQ 6 □ IRQ 7 □ IRQ 9 □ IRQ 10 □ IRQ 11 □ IRQ 12 □ IRQ 14 □ IRQ 15
PCI IRQ Line 9	□ Disabled ◎ Auto □ IRQ 3 □ IRQ 4 □ IRQ 5 □ IRQ 6 □ IRQ 7 □ IRQ 9 □ IRQ 10 □ IRQ 11 □ IRQ 12 □ IRQ 14 □ IRQ 15
PCI IRQ Line 10	□ Disabled ◎ Auto □ IRQ 3 □ IRQ 4 □ IRQ 5 □ IRQ 6 □ IRQ 7 □ IRQ 9 □ IRQ 10 □ IRQ 11 □ IRQ 12 □ IRQ 14 □ IRQ 15
PCI IRQ Line 11	□ Disabled ◎ Auto □ IRQ 3 □ IRQ 4 □ IRQ 5 □ IRQ 6 □ IRQ 7 □ IRQ 9 □ IRQ 10 □ IRQ 11 □ IRQ 12 □ IRQ 14 □ IRQ 15
PCI IRQ Line 12	□ Disabled ◎ Auto □ IRQ 3 □ IRQ 4 □ IRQ 5 □ IRQ 6 □ IRQ 7 □ IRQ 9 □ IRQ 10 □ IRQ 11 □ IRQ 12 □ IRQ 14 □ IRQ 15
PCI IRQ Line 13	□ Disabled ◎ Auto □ IRQ 3 □ IRQ 4 □ IRQ 5 □ IRQ 6 □ IRQ 7 □ IRQ 9 □ IRQ 10 □ IRQ 11 □ IRQ 12 □ IRQ 14 □ IRQ 15
PCI IRQ Line 14	□ Disabled ◎ Auto □ IRQ 3 □ IRQ 4 □ IRQ 5 □ IRQ 6 □ IRQ 7 □ IRQ 9 □ IRQ 10 □ IRQ 11 □ IRQ 12 □ IRQ 14 □ IRQ 15
PCI IRQ Line 15	□ Disabled ◎ Auto □ IRQ 3 □ IRQ 4 □ IRQ 5 □ IRQ 6 □ IRQ 7 □ IRQ 9 □ IRQ 10 □ IRQ 11 □ IRQ 12 □ IRQ 14 □ IRQ 15
Advanced System Configuration	【Press Enter】
APIC	□ Disabled ■ Enabled
PCI Bus Parity Checking	□ Disabled ■ Enabled
ECC Memory Checking	□ Disabled ■ Enabled
Processor Serial Number	■ Disabled □ Enabled
CPU Mismatch Detection	□ Disabled ■ Enabled
USB Host Controller	□ Disabled ■ Enabled
USB BIOS Legacy Support	■ Disabled □ Enabled
BIOS Work Space Location	□ Expansion ROM Area ◎ Top of Base Memory
Power On/Off	【Press Enter】
Power Off Source	
Software (Power Off Source)	□ Disabled ◎ Enabled
Power Button (Power Off Source)	□ Disabled ◎ Enabled
Power On Source	◎ Bios Controlled □ ACPI Controlled
Remote	□ Disabled ◎ Enabled
LAN	□ Disabled ◎ Enabled
Timer	□ Disabled ◎ Enabled
LAN Wakeup Mode	【Press Enter】
Monitor	◎ On □ Off
Power Failure Recovery	□ Always OFF □ Always ON ◎ Previous State □ Disabled
System Management	【Press Enter】
Fan Control	□ Enhanced Cooling ◎ Auto
SM Error Halt	□ Disabled ◎ Enabled
Fan State	【Press Enter】
CPU 0	□ None □ OK □ Fail

設定項目	設定値 (■ : 変更禁止 ◎ : ご購入時設定値)
CPU 1	<input type="checkbox"/> None <input type="checkbox"/> OK <input type="checkbox"/> Fail
System	<input type="checkbox"/> None <input type="checkbox"/> OK <input type="checkbox"/> Fail
Auxiliary	<input type="checkbox"/> None <input type="checkbox"/> OK <input type="checkbox"/> Fail
Power Supply 1	<input type="checkbox"/> None <input type="checkbox"/> OK <input type="checkbox"/> Fail
Power Supply 2	<input type="checkbox"/> None <input type="checkbox"/> OK <input type="checkbox"/> Fail
Temp	【Press Enter】
CPU 0	<input type="checkbox"/> None <input type="checkbox"/> OK <input type="checkbox"/> Fail
CPU 1	<input type="checkbox"/> None <input type="checkbox"/> OK <input type="checkbox"/> Fail
System	<input type="checkbox"/> None <input type="checkbox"/> OK <input type="checkbox"/> Fail
Auxiliary 0	<input type="checkbox"/> None <input type="checkbox"/> OK <input type="checkbox"/> Fail
Auxiliary 1	<input type="checkbox"/> None <input type="checkbox"/> OK <input type="checkbox"/> Fail
Reset Configuration Data	<input type="checkbox"/> Yes ◎ No
Lock Setup Configuration	<input type="checkbox"/> Yes ◎ No
Large Disk Access Mode	<input type="checkbox"/> Other ◎ Dos
ATAPI UDMA Auto Detect	<input type="checkbox"/> Disabled ◎ Standard
Multiprocessor Specification	<input type="checkbox"/> 1.1 ◎ 1.4

■Security メニューの設定項目

設定項目	設定値 (◎ : ご購入時設定値)
Setup Password	<input type="checkbox"/> Set (Setup パスワードが設定されている場合) <input type="checkbox"/> Not installed (Setup パスワードが設定されていない場合)
System Password	<input type="checkbox"/> Set (System パスワードが設定されている場合) <input type="checkbox"/> Not installed (System パスワードが設定されていない場合)
Set Setup Password	Setup パスワードを設定
Setup Password Lock	◎ Standard <input type="checkbox"/> Extended
Set System Password	System パスワードを設定
System Password Mode	◎ System <input type="checkbox"/> Keyboard
Boot Menu	<input type="checkbox"/> Disabled ◎ Enabled
System Load	◎ Standard <input type="checkbox"/> Diskette/CDROM Lock
Setup Prompt	<input type="checkbox"/> Disabled ◎ Enabled
Virus Warning	◎ Disabled <input type="checkbox"/> Enabled <input type="checkbox"/> Confirm
Diskette Write	<input type="checkbox"/> Disabled ◎ Enabled
Flash Write	<input type="checkbox"/> Disabled ◎ Enabled
Cabinet Monitoring	◎ Disabled <input type="checkbox"/> Enabled

■Server メニューの設定項目

設定項目	設定値 (■ : 変更禁止 ◎ : ご購入時設定値)
O/S Boot Timeout	◎ Disabled <input type="checkbox"/> Enabled
Timeout Value	◎ 0 <input type="checkbox"/> 1 ~ 20
Boot Retry Counter	<input type="checkbox"/> 0 <input type="checkbox"/> 1 <input type="checkbox"/> 2 ◎ 3 <input type="checkbox"/> 4 <input type="checkbox"/> 5 <input type="checkbox"/> 6 <input type="checkbox"/> 7
Diagnostic System	■ Disabled <input type="checkbox"/> Enabled <input type="checkbox"/> Disk Not Installed
CPU Status	【Press Enter】
CPU 0 Status	<input type="checkbox"/> Disabled ◎ Enabled
CPU 1 Status	<input type="checkbox"/> Disabled ◎ Enabled
Memory Status	【Press Enter】
Memory Module 0A	◎ Enabled <input type="checkbox"/> Failed
Memory Module 1A	◎ Enabled <input type="checkbox"/> Failed
Memory Module 0B	◎ Enabled <input type="checkbox"/> Failed
Memory Module 1B	◎ Enabled <input type="checkbox"/> Failed
Rom Pilot	【Press Enter】
Rom Pilot Support	◎ Disabled <input type="checkbox"/> Enabled

SCSI コンフィグレーションユーティリティ

■Boot Adapter List メニューの設定項目

設定項目	設定値 (■ : 変更禁止 ◎ : ご購入時設定値)
Boot Order	■ 0
Next Boot	■ ON □ OFF

■Global Properties メニューの設定項目

設定項目	設定値 (■ : 変更禁止 ◎ : ご購入時設定値)
Pause When Boot Alert	
Displayed	◎ NO □ YES
Boot Information Display Mode	◎ Verbose □ Terse
Negotiate with device	◎ Supported □ All □ None
Video Mode	◎ Color □ Monochrome
Support Interrupt	◎ Hook interrupt, the Default □ Bypass interrupt hook

■Adapter Properties メニューの設定項目

設定項目	設定値 (■ : 変更禁止 ◎ : ご購入時設定値)
SCSI Parity	□ NO ■ YES
Host SCSI ID	■ 7 □ 0-7, 9-15
SCSI Bus Scan Order	■ Low to High(0..Max) □ High to Low(Max..0)
Removable Media Support	■ None □ Boot Drive Only □ With Media Installed
CHS Mapping	■ SCSI Plug and Play Mapping □ Alternate CHS Mapping
Spinup Delay (secs)	◎ 2 □ 0-15
Secondary Cluster Server	■ NO □ YES
Termination Control	表示のみ (設定不可)

■Device Properties メニューの設定項目

設定項目	設定値 (■ : 変更禁止 ◎ : ご購入時設定値)
MT/sec	■ 80 □ 40 □ 20 □ 10 □ 5 □ 0
Data Width	■ 16 □ 8
Scan ID	■ Yes □ No
Scan LUNs > 0	■ Yes □ No
Disconnect	□ Off ■ On
SCSI Timeout	◎ 10
Queue Tags	□ Off ■ On
Boot Choice	表示のみ (設定不可)
Format	ハードディスクの物理フォーマットを実行
Verify	デバイスの媒体を検査

システム資源管理表

各種拡張カードで選択できる I/O ポートアドレス、割り込みレベルおよび DMA チャンネルは、以下の表のとおりです。

■I/O ポートアドレス









品名	I/Oポートアドレス (h)																設定方法
	100	140	180	1C0	200	240	280	2C0	300	340	380	3C0	400				
シリアルポート1																	BIOSセットアップ
シリアルポート2																	BIOSセットアップ
パラレルポート																	BIOSセットアップ

備考：シリアルポートは、4ポートの中から最高2ポートまで選択できます。

- * □ □ は、それぞれの拡張カードで選択できるI/Oポートアドレス空間を示します。
- はそのマークが重なる目盛のアドレスから16バイトまたは16バイト内の一部の空間を使用します。
(■ はデフォルトで選択されている空間)
 - はそのマークが重なる目盛のアドレスから32バイトまたは32バイト内の一部の空間を使用します。
(■ はデフォルトで選択されている空間)

RAID 設計シート

■ハードディスクの搭載位置と設定

搭載ハードディスクベイ	この位置にハードディスクを搭載しましたか？		チャンネル (固定)	SCSI-ID (固定)	ハードディスク の製品名 (PG-HDH**)	ハードディスク の容量 (***GB)
ベイ1		有・無	 0	ID=0	() ()	()GB
ベイ2		有・無	 0	ID=1	() ()	()GB
ベイ3		有・無	 0	ID=2	() ()	()GB
ベイ4		有・無	 0	ID=3	() ()	()GB

■フィジカルパックの定義

1つのフィジカルパックは、同一型のハードディスクで構成してください。

ハードディスク-ID	チャンネル0
0	<input type="text"/>
1	<input type="text"/>
2	<input type="text"/>
3	<input type="text"/>

注意！
一つのフィジカルパックは、同一型名のハードディスクで構成してください。

■システムパックの定義

システムドライブNo.	RAIDレベル	容量	キャッシュモード
0	0・1・5	() GB	ライトスルー
1	0・1・5	() GB	ライトスルー
2	0・1・5	() GB	ライトスルー
3	0・1・5	() GB	ライトスルー

— (記入例1) —

システムドライブNo.	RAIDレベル	容量	キャッシュモード
0	0・1・ <u>5</u> ・6	(9.1) GB	<u>ライトスルー</u>

注意！

- ・同一フィジカルバック内に、RAID0と他のRAIDレベルのフィジカルバックを混合して作成しないでください。リビルドできなくなります。
- ・本サーバではライトバックの使用を推奨しません。使用する場合は、SCSIアレイコントローラカードに添付の取扱説明書を参照してください。

使用許諾契約書

使用許諾契約書

富士通株式会社（以下弊社といいます）では、本サーバにインストール、もしくは添付されているソフトウェア（以下本ソフトウェアといいます）をご使用いただく権利をお客様に対して許諾するにあたり、下記「ソフトウェアの使用条件」にご同意いただくことを使用の条件とさせていただきます。なお、お客様が本ソフトウェアのご使用を開始された時点で、本契約にご同意いただいたものといたしますので、本ソフトウェアをご使用いただく前に必ず下記「ソフトウェアの使用条件」をお読みいただきますようお願い申し上げます。ただし、本ソフトウェアのうちの一部ソフトウェアに別途の「使用条件」もしくは「使用許諾契約書」等が、添付されている場合は、本契約に優先して適用されますので、ご注意ください。

ソフトウェアの使用条件

1. 本ソフトウェアの使用および著作権
お客様は、本ソフトウェアを、日本国内において本サーバでのみ使用できます。なお、お客様は本サーバのご購入により、本ソフトウェアの使用権のみを得るものであり、本ソフトウェアの著作権は引き続き弊社または開発元である第三者に帰属するものとします。
2. バックアップ
お客様は、本ソフトウェアにつきまして、1部の予備用（バックアップ）媒体を作成することができます。
3. 本ソフトウェアの別ソフトウェアへの組み込み
本ソフトウェアが、別のソフトウェアに組み込んで使用されることを予定した製品である場合には、お客様はマニュアル等記載の要領に従って、本ソフトウェアの全部または一部を別のソフトウェアに組み込んで使用することができます。
4. 複製
(1) 本ソフトウェアの複製は、上記「2.」および「3.」の場合に限定されるものとします。
本ソフトウェアが組み込まれた別のソフトウェアについては、マニュアル等で弊社が複製を許諾していない限り、予備用（バックアップ）媒体以外には複製は行わないでください。
ただし、本ソフトウェアに複製防止処理がほどこしてある場合には、複製できません。
(2) 前号によりお客様が本ソフトウェアを複製する場合、本ソフトウェアに付されている著作権表示を、変更、削除、隠蔽等しないでください。
5. 第三者への譲渡
お客様が本ソフトウェア（本サーバに添付されている媒体、マニュアルならびに予備用バックアップ媒体を含みます）を第三者へ譲渡する場合には、本ソフトウェアがインストールされたサーバとともに本ソフトウェアのすべてを譲渡することとします。なお、お客様は、本サーバに添付されている媒体を本サーバとは別に第三者へ譲渡することはできません。
6. 改造等
お客様は、本ソフトウェアを改造したり、あるいは、逆コンパイル、逆アセンブルをともなうリバースエンジニアリングを行うことはできません。
7. 保証の範囲
(1) 弊社は、本ソフトウェアとマニュアル等との不一致がある場合、本サーバをご購入いただいた日から 90 日以内に限り、お申し出をいただければ当該不一致の修正に関して弊社が必要と判断した情報を提供いたします。
また、本ソフトウェアの記録媒体等に物理的な欠陥（破損等）等がある場合、本サーバをご購入いただいた日から 1ヶ月以内に限り、不良品と良品との交換に応じるものとします。
(2) 弊社は、前号に基づき負担する責任以外の、本ソフトウェアの使用または使用不能から生じるいかなる損害（逸失利益、事業の中断、事業情報の喪失その他の金銭的損害を含みますが、これに限られないものとします）に関しても、一切責任を負いません。たとえ、弊社がそのような損害の可能性について知らされていた場合も同様とします。
(3) 本ソフトウェアに第三者が開発したソフトウェアが含まれている場合においても、第三者が開発したソフトウェアに関する保証は、弊社が行う上記 (1) の範囲に限られ、開発元である第三者は本ソフトウェアに関する一切の保証を行いません。
8. ハイセイフティ
本ソフトウェアは、一般事務用、パーソナル用、家庭用などの一般的用途を想定したものであり、ハイセイフティ用途での使用を想定して設計・製造されたものではありません。お客様は、当該ハイセイフティ用途に要する安全性を確保する措置を施すことなく、本ソフトウェアを使用しないものとします。ハイセイフティ用途とは、下記の例のような、極めて高度な安全性が要求され、仮に当該安全性が確保されない場合、直接生命・身体に対する重大な危険性を伴う用途をいいます。

記

原子力核制御、航空機飛行制御、航空交通管制、大量輸送運行制御、生命維持、兵器発射制御など

富士通株式会社

PRIMERGY C200

はじめにお読みください

B7FH-0911-01-00

発行日 2002 年 10 月

発行責任 富士通株式会社

Printed in Japan

- 本書の内容は、改善のため事前連絡なしに変更することがあります。
- 本書に記載されたデータの使用に起因する、第三者の特許権およびその他の権利の侵害については、当社はその責を負いません。
- 無断転載を禁じます。
- 落丁、乱丁本は、お取り替えいたします。

Ⓐ 0210-1

FUJITSU



古紙配合率100%再生紙を使用しています。



* B 7 F H 0 9 1 1 0 1 *